

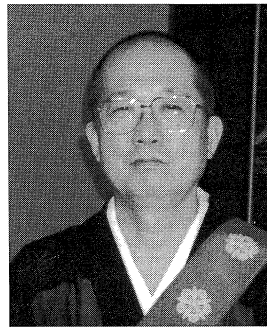
市仏連会報

発行所
 横浜市中区大平町96
 光明山西有寺内
 横浜市仏教連合会
 電話(045)661-0166

ご挨拶

ありがとうございます
 更なるご協力をお願い致します

横浜市仏教連合会
 会長 都 築 哲 信



会長職を拝受して早くも四年が過ぎようとしています。前会長を務められた斉藤隆法師は税務問題を

を初めとして行政の運営に卓越されていたので、その後を受けての会長職は余りにも重責でした。しかし、会長諸聖や特に理事・役員諸聖の協力のおかげで、平成十四年五月より二期四年間無事に務めることができましたことを感謝致します。

市仏に託された問題は多く、「市仏ネット」は最大の関心事でした。昨年四月三日に発足し多くの会員諸聖から賛同を頂きました。息の長い活動になりますがご協力をお願い致します。現在の葬儀は業者主導になつており、葬祭産業の全盛期の如く、各葬儀会社が競つて大きな会館を建設しておりますが、使用料無料は名目だけで、多額の

葬儀費用が発生します。良心的な業者も多くありますが多勢に無勢で、葬儀に対する不信感には社会現象のようになっております。葬儀は葬家と僧侶が主体となつて死者を弔うことが大切で、業者はそれを取り持つてゆく任務があります。寺院は仏を供養しその意識を大衆に説いていくことが必要です。最近はずいぶん業者の意識も変化しているようです。しかし、都会地においては三割以上がお経の声も無いまま火葬されている実態は葬儀費用の為か、宗教の必要性を否定していることか、我々に課せられた大きな問題です。一部の新興大教団だけが大きくなり、日本人の心を育ててきた伝統宗教が次第に国民の心から離れて行きつつあります。

今日まで伝統教団が守ってきた仏像・仏閣は民衆の信仰心のほとばしりの中から造られてきたもので、今日では不便とか秘境と言われる場所に心血を注いだ仏像・伽藍が奉られていることは、先人達の深い信仰心の拠り所でした。毎年、市仏で行っている仏蹟旅行はそうした先人の魂に触れ、そこから功德を頂くことでも重要な

行事で、檀信徒はもとより会員諸聖の多くのご参加を望みたいところです。

横浜市仏教連合会の活動も三〇年を経過してその間社会情勢も変化してきました。全日本仏教会・神奈川県仏教会・各区仏教会・横浜市以外の仏教会等があり、それらと円滑な関係を保つていく上で、規約上、「連合会」という字句が必要かどうか、他地区の仏教会を見ると誤解されかねない危険性もあるため、「横浜市仏教会」と規約を改めたほうが適当であろうという意見も多々あります。今後の問題として考える必要があります。

平成十七年五月からの横浜市仏教連合会会長は先の会長選考委員会で選考承諾され、五月十八日の総会で承認を得てスタートしますが、大変に立派な会長候補者であります。各種の問題解決や特に「市仏ネット」の活動は永続的に進められなければなりません。そのためにも会員諸聖の一層のご協力をお願い申し上げます。

お知らせ

◎春の仏蹟参拝旅行案内

期日 平成17年6月16日(木)

旅程 水澤寺・高崎観音

旅費 九千五百円(5/15メ切)

◎市仏連合会総会

日時 17年5月18日(水)午後2時

会場 中区西有寺

◆涅槃会担当区予定

平成18年 第31回 港北区仏教会

平成19年 第32回 金沢区仏教会

平成20年 第33回 南・港南区仏

歳末理事会報告

平成16年12月9日(木) 午後5時より、青木橋の「サンオリブ」で歳末理事会が開かれ、24名出席。

一、開会の辞 玄野副会長

一、挨拶 都築会長

一、第30回涅槃会 上柳中区会長

一、平成17年度総会の件 林田専務

議長は磯子区と港北区の予定

一、会報59号発行の件 備前担当

一、秋の仏蹟参拝旅行報告

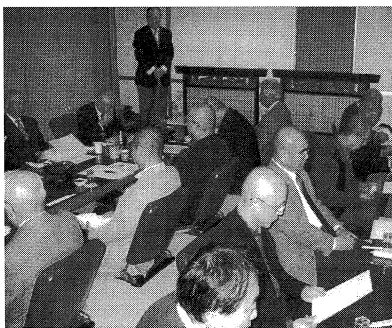
一、平成17年春の仏蹟参拝予定

一、県慰霊堂出仕予定の件

一、時局対策委員会 佐藤委員長

一、その他 次期会長選考委員会の件、中越地震見舞金20万円を新潟県仏へ、遠藤顧問弁護士より架空請求詐欺の話

終わって懇親会。閉会の辞は川上副会長。進行は林田専務理事。



◆県慰霊堂出仕当番表

平成17年4月5日 中区

平成17年6月6日 保土ヶ谷 旭区

平成17年10月5日 鶴見区

平成17年11月7日 戸塚区

第三十回記念涅槃会開催

於 西有寺 中区仏教会担当

市仏連の涅槃会も第三十回となり、担当の中区仏教会と市仏連役員が一体となり、会場の西有寺様の全面的なご協力を得て、平成十七年二月十日に実施厳修された。当日は暖かい、晴の天候に恵まれ、僧檀や関係者が約一二〇名も参集された。午後一時に受付、一時半に本堂で法要修行、都築哲信市仏連会長が導師、中区仏教会長の上柳毅明師が脇導師、式衆は中区の諸師と西有寺の雲水さんら十四名で勤行された。開式の言葉、市仏連副会長の玄野孝善師、一同三礼、三帰依文（導師に続いて唱和）、啓白文の奉読（都築導師）、読経（観音経普門品偈・舍利礼文三遍）代表指名焼香（横山敏明師・市釈尊奉讃会会長の増島和亥氏・講師の藤村志保さん）。一般焼香（廻



し）、回向文訓読（上柳毅明師）。二時法要終了。休憩の間に、ピーエス観光社員が六月十六日の群馬県方面二ヶ寺の春の仏跡参拝の案内をした。二時十五分に二部の式典が始まる。都築哲信市仏連会長、増島和亥市釈尊奉讃会会長、横山敏明神奈川県仏教会会長が各々に挨拶をされ、上柳毅明中区仏教会長が挨拶と講師の藤村志保さんを紹介された。

午後二時半〜三時二十五分頃まで女優の藤村志保さんが『出会い』

講演録

「出会い」

女優 藤村志保さん

と題して身ぶり手ぶりよろしく、和服姿も似合って、動いたり坐ったり、まことに凛として、熱意のこもった印象に残る内容の話をされた。聴衆が見取れ聞き惚れた「出会い」となった得難い三十回記念講演だった。

総司会進行役を林田専務理事が務め、川上敬吾市仏連副会長が閉式の言葉を述べて、三時半に終了した。参加者に紅白饅頭が配られた。それから書院で反省会の席が持たれ、上柳中区仏教会長を始め、関係者ら一様に三十回記念涅槃会が有意義かつ盛況裡に成満したことに満足の面持ちであった。五時頃に散会した。

昨年から、不安なことばかりが続き、最近には特に小さなお子さんに、とても悲しい事故ばかりが起きておりますので、早く暖かい春が来て欲しいなと願わずにはいられない昨今です。

雷蔵さんとの出会い

もう四十三年前のことですが、島崎藤村の『破戒』という小説が映画になりました。その時に市川雷蔵さんのお相手役に抜擢され、藤村をふじむらと読んで役名の志保から「藤村志保」という女優が生まれました。私が女優という社会人として一番最初に大きな出会いをさせてくれた雷蔵さんは

本当に私にとりましては恩人です。大勢の方々に支えられて

私どもの映像やお芝居の仕事というものは、カメラ、照明、録音、小道具、大道具など、ありとあらゆる役目を持った方達が、常に四五十人、私の撮影の周りにいるわけです。大勢の方々に支えられ、皆さんの力をいただけて私という女優の一カツトが撮れるわけです。

今、「温泉へ行こう」という六チャンネルのドラマに出ているのですが、朝から夜中の三時頃まで撮影を行い、二日間だけがお休みなのですがそのお休みの間にたくさんさんの台詞を覚えるのと体調を整

えるのに追われるため結構疲れます。

けれども、「変身をする」ということは、私達はわりと好きなのです。たとえばカラオケで歌を唄うのも一種の変身で、皆様のお心の中にもあると思うのですが、その変身の最たるものが俳優の仕事というものです。ですから、私はこの仕事が好きで、女優として良い仕事をしたというのが、一番の願いです。

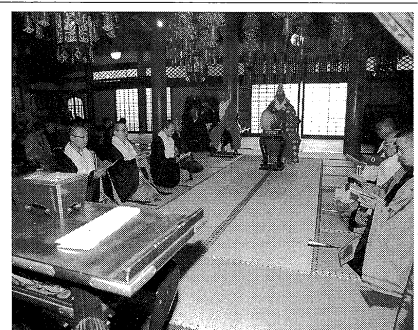
役との出会い

女優としてデビューして三年後に、NHKの大河ドラマで「太閤記」というのがありました。緒方拳さんが秀吉で、私が「ねね」をやらせていただきました。もう四十年前前のことです。ねねという人は、秀吉が亡くなってから出家して高台院と名乗り、京都の東山にお住まいになりました。このお役をいただくときに、この高台院さんにお参りに行きました。秀吉とねねの座像が安置されている霊屋（おたまや）は、ねねさんが亡くなられた場所だと言われています。病気になるられて、いよいよ自分の死を悟った時にここに穴を掘って、何もご飯を召し上げらずにこの穴の中で坐禅を組み通したというお話聞いた時に、私は「あ、これでねねがわかった」と思いました。今で言えば尊厳死ですよ。延命治療を一切断わって、自分の命が自然に尽きるように、静かにお浄土へ旅立たれた腹の据わった素晴らしい女性なんだと思えました。こういうことをヒントにし

て、役作りをしていくわけです。これが私どもは仕事の中での役との出会いなのです。そういう出会いが私どもにとってはとても大事なことです。

オビニオンリーダーとして

私はこれもまたお寺に縁がありまして、主人の実家が滋賀県の浄土宗のお寺なのです。主人は長男で僧籍もあるのですが、お寺を継がないで妹のお婿さんが法林寺という法灯は守っていたいております。私も嫁として手伝いに帰ります。お盆や五重奏儀のお手伝いとか、檀家の皆様とのお集まりの中でお手伝いをさせていただきました。山の中の小さなお寺ですが、主人の郷の一族が檀家の皆様達と、日頃、皆様の喜びを喜びとし、悲しい時にはそれを分かち合って良い交流をしているお寺さんの生き方という姿を見てまいりました。街中の東京におりますと、お寺さんは、法事とかお葬式とかという時以外はなかなか交流していく場がないように思いますが、そこは田



舎なので、寺がひとつの村や町のオビニオンリーダーとしてリーダーシップをとり、皆様のお気持ちや意見をまとめていく役割を果たしているのです。

今、虐待の問題や悲しい事件な



どお子さん達の色々な問題が出てくる時に、次の世代のお子達に愛情をかけ、「あなたが大事なよ」「あなたが大好きなのよ」とお父さんやお母さんが子供を抱きしめたりすることがとっても大事なことでだと思えます。そして、宗教界や心のケアをしてくださる方たちが、もつと積極的に世の中に愛の手を差し伸べてアピールしていただき、次の世代の者たちに伝えていかなくてはならないことを、教えていただくとありがたいと思えます。たとえば優しさや勇気というような精神的なものも含めて、お行儀、料理のお味、お作法などを本当に伝えていかなければ、私たちの祖先が作り上げてきた大事な日本独自の文化が、みんな壊れていくような気がします。

私は、日本独自のものとして生まれてきた畳文化というものは素晴らしいものだと思います。畳がなくなつたために椅子だけの

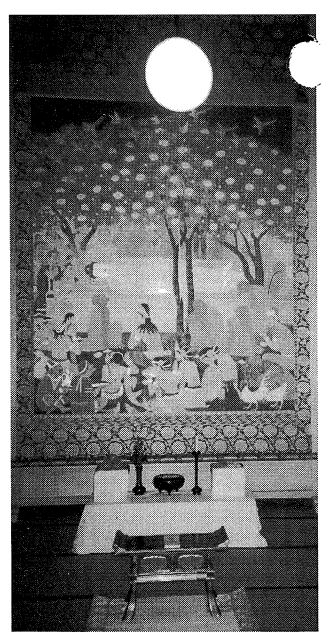
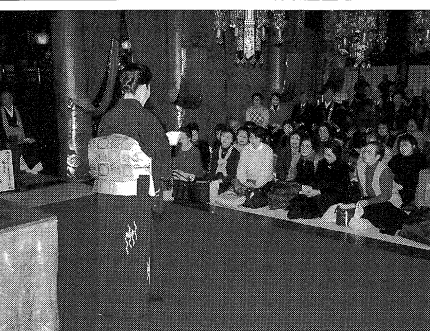
生活になつて、「こんにちは」で済むような生活になつてきたことは、私達のお行儀も全部壊れました。ですから、大きな広い畳の場があるお寺さんは、その地域のいろいろなことに結びつけた活用の仕方があるのではないのでしょうか。私は、いつもお寺さんへ行く時、「ああ、この場で子供達に日本人の文化、礼儀作法を教えたり出会うの場があつてもいいのではないかなあ」と思つたりすることがよくあります。きちんと立つたり座つたり、腰をきちんと伸ばすというふうな、形の整つた美しさは大切ですよ。そうしたときに、心もきちんと身体の中の丹田（おへそ）のところですね）に来て、人間は真つ直ぐになつてくるということがあるのですよ。

女優としての生き甲斐

私たちは何が嬉しいかと申しますと、自分が演じた仕事を見てくださった方たちが、「楽しかったなあ」、「ああ、生きていてよかったなあ」と思つてくださったら、それがいちばん俳優として演じ甲斐のあることなのです。そして、やっぱり私も「ああ、生きていてよかった」と、最終的に思えるような仕事をしたいと思えます。「てるてる家族」のおばあちゃんの時、すごく楽しかったのです。あのおばあちゃん、それこそ昔堅気で一本芯が通り、その家を支えてきた本当におばあちゃんを知恵を持った人でした。あの役を演じるときに、本当のいしだあ

ゆみちゃん達のお母様にお会いして「お姑さんはどういう方でしたか？」とお聞きしたのです。そうしたら、自分の檀那さんとお姑さんどちらかが残らんなら、おばあちゃんに残つて欲しかったと思うくらい自分はおばあちゃんが好きで尊敬していたとおつしやつたのです。この一言で私は「あ、それだけお嫁さんに愛され尊敬されたおばあちゃんだったんだな」と思い、それがひとつの役作りの基本をなしました。

やはり実際の人物を演じるときには、その方やそのご縁のある方にお会いしたり、勉強して史跡を訪ねて、何かヒントをいただきながら私達は作っていきます。そういう楽しみもございます。また、いろいろな監督さん、先輩の俳優さんたちに出会い、いろいろ教えていただき、いろいろな役柄によって教えられてきました。私は今日、素晴らしい出会いをさせていただいたと、思つております。



ます。私自身も六十を半ば過ぎ、だんだん肉体的に辛い年頃に入つてまいりましたけれども、いただいたこの命をやつぱり大事にして、命ある限りは一生懸命生きていくかなあと思つています。優しさを分け与える世の中に、二年前に母を亡くしましたが、その母の教えというのが、日ごろの生活の中で思はず出てくるのです。いつも本当に元気で、お洒落で素敵な私の自慢できる母親だったので、弱くなつていく姿を娘としてはなんとなく認めたくなくて、「お母さんしっかりして」とばかり言つておりました。母には「この年になつて叱咤激励はいらないわ。優しい言葉だけが欲しい」といわれてしまいました。私はキツイ親不孝な娘でございました。十分な孝養もできないままの別れを日々感じながら、「ああ、お母さんにもう一度会いたいなあ、会えたらなあ」と思うような毎日でございます。

どうぞ皆様も親御様を大切になさってください。それには、ご自身ももちろん健康でなければ、人を思いやることもできません。自分

※「初恋」朗読②
もう一つ読みます。島崎藤村が書いた「初恋」という詩が、私は大好きです。藤村の初恋のおよさんのこと、初めて会つた長野の林檎畑の風景をうたつている詩なのです。

そして、最後にもう一つ読ませてください。どなたもお母様をお見送りになられた方もいられるでしょうし、今、介護に明け暮れていらつしやる方もおられましよう。自分が母を見送りましたら、この詩があることに気が付きました。やつぱりお母さんの愛には、私達にない深さがあります。これは藤村が自分のお母さんを送った後の詩です。

※「母を葬るの詩」朗読③
私の母は、鶴見の曹洞宗宝泉寺様の別院で川崎にある西運庵というお寺でお世話になっております。

こちら（西有寺）も曹洞宗で、若いお坊さん達の修行道場でもおありのようですが、お寺さん方のご指導によって、少しでも楽しく仲良く暮らせますように、お力をお貸しいただきたいと思っております。お願い申し上げます。



朗読された詩

①のはらうた 工藤直子
きようはなんと気持ちのよい朝でしょう。
わたしはウキウキして散歩に出かけました。

のはら村は、もうすっかり春です。すみれ通りをぶらぶらしていたら、あしもとから、元氣な歌声が聞こえてきました。

どれどれと、のぞきこむと
つくしてはおくくんが
たくさんの仲間といつしよに
歌をうたっています。

「こんにちは。楽しい歌だねえ」
「こんにちは。あのね、ぼくたち
生まれてでしよう？」
うれしくて、せのびして
あちこち眺めているうちに
みんなで声をそろえて
うたいたくなつたんだよ」
そこで、わたしは一休み。
ひなたぼっこをしながら
つくしくんたちの歌をききました。

つんつん つくしてはお
つくし つんつん めをさませ
もんしろちょうも いそいそと
なのはなばたけにつがくちゅう
つくしは のはらのいちねんせい

つくし つんつん せが のびた
のびて まわりを みまわせば
かせが おでこを なでていく
みんなが のはらで まつてるよ
「のはらうた わつはつは」
(童話屋)

②初恋 島崎藤村

まだあげ初めし前髪
林檎のもとに見えしとき
前にさしたる花櫛の
花ある君と思ひけり
やさしく白き手をのべて
林檎をわれに与えしは
薄紅の秋の実に
人恋初めしはじめなり
わが心なき溜息の
その髪の毛にかかるとき
たのしき恋の盃を
君が情に酌みしか
林檎畑の樹の下に
おのずからなる細道は
誰が踏みそめしかたみぞと
問いたまふこそこひしけれ
.....

③母を葬るのうた 島崎藤村
きみが墓場に きさくあり
きみが墓場に さかさあり
草葉に露は しげくして
おもからずやは そのしるし
いつかねむりを さめいでて
いつかへりこん わがは、よ
紅羅ひく子も ますらをも
みな散り散りと なるものを
あゝさめたまふ ことなかれ
あゝ帰り来る ことなかれ
春は花咲き 花散りて
きみが墓場に かゝるとも
夏は乱る、螢火の
きみが墓場に 飛べるとも
秋はさみしき 秋雨の
きみが墓場に そゝぐとも
冬は真白に 雪霜の
きみが墓場に 凍るとも
遠きねむりの 夢枕
恐るゝなかれ わが母よ

時局対策委員会報告

公取委が調査開始

時局対策委員長 佐藤功岳

本紙が皆様のお手元に届く時は既に平成十六年度も終了していることと存じますので、本年度の市仏ネットの活動を少し報告させていただきます。

市仏ネットの広報資金は、お蔭様で別表のように二年分程度ご協力をいただきました。毎月一回、神奈川新聞の横浜版に仏教会からの情報を含めて発信しております。また市仏ネット自体といたしましては、

- 葬儀依頼.....三件
- 事後七々日忌・一周忌.....二件
- 枕経.....一件
- 相談.....三件

去る二月八日付サンケイ新聞は、公正取引委員会が葬儀社及び関連への調査を始めると報じておりました。
政府の機関までもが動かねばならない程、実情は悪化しているのです。一般市民の感情から遊離しないよう更に心掛けていきたいと考えております。
市仏ネットの動きは平塚市仏教会相模原市仏教会へも影響を与え、委員組織化へスタートしてい

ます。梶川青では早期から取り組んでおりましたが、個々に来て県内の宗派青年会に於ても動きが出て参りました。

葬祭連合会は、本市だけではなく、神奈川県葬祭連合会として接触して来ております。
本来、「葬儀」は宗教界の土俵でございます。この神聖なる祈りの場から単なるセレモニー化を目指す呼称「告別式」を撤回させるべく指導していくことも重要と考えます。

ご案内のように「告別式」の始まりは、中江兆民が自分の葬儀は宗教色を排除した「告別式」で行うよう遺言し、明治四十三年十二月七日に青山葬儀所で行われたことによります。こうした意義が「告別式」の目指すところであり、我々仏教会は断固拒否すべきことと考えるのは早計でしょうか。

次年度は、こうした指導も考えております故、諸大徳のご意見お寄せいただければ幸いです。
今後時局対策委員会・市仏ネットに格段のご協力、ご指導をお願いいたします。



神奈川県仏教会会長
横浜市仏教連合会顧問
曹洞宗西有寺住職

横 山 敏 明

〒231 0859 中区大平町九六
電話 六六一〇二六六

横浜市仏教会連合会常務理事
中区仏教会長
高野山真言宗東福院住職

上 柳 毅 明

〒231 0826 中区本牧荒井町六四
電話 六二三一八四一八

横浜市仏教連合会会長
法華宗陣門流勸行寺住職

都 築 哲 信

〒220 0002 西区南軽井沢九
電話 三二一三三五七七

横浜市仏教連合会副会長
曹洞宗長昌寺住職

玄 野 孝 善

〒241 0822 旭区さちが丘五九九
電話 三九一一三七九

横浜市仏教連合会副会長
鶴見区仏教会長
臨濟宗建長寺派松蔭寺住職

川 上 敬 吾

〒230 0077 鶴見区東寺尾一―一八―一
電話 五七一―一七〇一

横浜市仏教連合会常務理事
神奈川区仏教会長
曹洞宗本覚寺住職

守 長 尚 文

〒221 0057 神奈川区高島台一―二
電話 三二二―〇一九一

横浜市仏教連合会常務理事
栄区仏教会長
高野山真言宗般若院住職

星 野 英 秀

〒244 0842 栄区飯島町二―一四九
電話 八九一―一七〇一

横浜市仏教連合会常務理事
保土ヶ谷・旭区仏教会長
曹洞宗正福院住職

山 本 尚 亨

〒240 0031 保土ヶ谷区仏向町三九九
電話 三三一―四八八七

横浜市仏教連合会常務理事
都筑区仏教会長
高野山真言宗長王寺住職

山 本 信 行

〒224 0053 都筑区池辺町二八二七
電話 九四一―一三六七

横浜市仏教連合会常務理事
南・港南区仏教会長
曹洞宗興禅寺住職

市 川 智 彬

〒232 0007 南区清水ヶ丘二二二五
電話 二三一―七五九〇

横浜市仏教連合会常務理事
磯子区仏教会長
高野山真言宗大聖院住職

鷺 雄 興 勝

〒235 0055 磯子区東町六一―二〇
電話 七五一―〇六七二

横浜市仏教連合会常務理事
港北区仏教会長
曹洞宗貴雲寺住職

渡 辺 道 春

〒222 0034 港北区岸根町六一―四
電話 四九一―九三〇二

横浜市仏教連合会常務理事
緑・青葉区仏教会長
高野山真言宗萬藏寺住職

河 本 冨 文

〒226 0012 緑区上山二一五―一二
電話九三一―一五七三

横浜市仏教連合会常務理事
瀬谷区仏教会長
真宗大谷派最勝寺

柳 沢 柳 丸

〒246 0021 瀬谷区二ツ橋町三三七
電話三六二―六〇七二

横浜市仏教連合会監事
浄土宗宝心寺住職

丸 地 良 信

〒245 0016 泉区和泉町三一九三
電話八〇二―三一八

横浜市仏教連合会監事
真言宗智山派東漸寺住職

森 岡 隆 冲

〒230 0041 鶴見区潮田町三一四四―二
電話五〇一―二三八八

横浜市釈尊奉讃会事務局次長
曹洞宗東照寺住職

程 木 昭 徳

〒223 0053 港北区綱島西一十三―十五
電話五三一―一七八三

横浜市仏教連合会時局対策委員長
日蓮宗大圓寺住職

佐 藤 功 岳

〒231 0859 中区大平町九四
電話六四一―四九三三

横浜市仏教連合会専務理事
浄土宗見光寺住職

林 田 眞 成

〒240 0004 保土ヶ谷区岩間町二一四〇
電話三三一―〇六〇七

横浜市仏教連合会常務理事
泉区仏教会長
日蓮宗本興寺住職

浅 井 玄 裕

〒245 0018 泉区神飯田町三六二四
電話八〇二―三一五一

横浜市仏教連合会会報担当
曹洞宗東泉寺住職

関 水 俊 道

〒245 0017 泉区下飯田町七四三
電話八〇二―八〇九七

真言宗豊山派西福寺住職

備 前 恭 忍

〒246 0037 瀬谷区橋戸三二―一二
電話三〇一―六一三四

横浜市仏教連合会会計
日蓮宗妙光寺住職

秋 山 智 謙

〒246 0006 瀬谷区上瀬谷町八一三
電話三〇一―二九八九

横浜市仏教連合会顧問弁護士

遠 藤 隆 也

〒221 0022 (自) 宅 神奈川区白幡上町一八一三
電話四三二―六一九二
〒110 0015 (事務所) 台東区東上野二一八一七
電話〇三一―八三二―二八一九

横浜市仏教連合会御用達
株式会社エス観光神奈川社長

真 川 明

〒240 0022 保土ヶ谷区西久保町一四
公園ハイツ二一―一八
電話三三四―三四〇〇

市仏ネット賛助金協力者

Table listing donors and their amounts. Columns include region (e.g., 鶴見区, 港南区), temple name (e.g., 松蔭寺, 東漸寺), and donor name (e.g., 川上 敬吾, 森岡 隆冲). A separate section lists the total amount (賛助金総額 貳百六拾四万円) and the date (平成17年3月16日現在).

区仏だより

「一日仏跡バス参拝と花まつり」
緑・青葉区連合仏教会では、一月二十四日(月)、一日仏跡バス参拝を催しました。成田山新勝寺へ宗吾霊堂へ海はたるといこうコースです。バス二台、六十六名の参加となりました。



新勝寺には十一時に到着。本堂正面で般若心経を唱える時間を頂きました。
昼食は、門前のお土産屋さん。幕の内風のお料理と山菜炊き込みご飯。昼としては満腹になるボリュームで味の方も期待以上でした。その後一時間ほど門前の賑わいを楽しみ、十三時半バス乗車。宗吾霊堂を目指しました。

宗吾霊堂は、詳しくは真言宗豊山派鳴鐘山東勝寺と号し、義民として名高い佐倉宗吾の菩提寺です。等身大人形で宗吾さんの生涯を案内する一代記館があり、お寺の方

戸塚区

が詳しい説明をして下さいます。その後本堂で般若心経を唱えお参りさせて頂きました。
海はたるとは、さすがに風が強く寒かったです。晴天に恵まれ素晴らしい景色を堪能しました。
十八時頃出発地へ戻り、無事楽しい参拝旅行を終えることが出来ました。
又、来る四月三日(日)には、観護寺(緑区小山町六七七の九)を会場に花まつりを開催いたします。十三時半に円光寺から白象山車行列、十四時から法要。その後、大道芸パフォーマンスしほちゃんによるジャグリング・パルーンアート、ご詠歌奉納(大師講)、雅楽奉納(真言宗神奈川雅楽部)等を予定しています。

でも面識がない。総会にも出席する住職は少ない。未だ一度も出席しない住職が多い。これでも仏教会と云えるのだろうか？

他区の仏教会もそうなのだろうか。何か空しい思いがする。しかし今は会員も若返りしている。若いピチピチした住職が大勢いる。私などはそろそろ身を引く塩時かも知れないと近頃つくづくそう思うことがある。(福田俊光記)

● 都 筑 区 ●

都筑区仏教会では「仏式結婚式」を普及させるため、昨年四月に「仏式結婚式実行委員会」を設立した。とかく法事、葬儀が中心の寺院は檀信徒にとって暗いイメージをもたれがちである。お寺では結婚式などやらないものと思われていた。そこで「そんなことはありません。仏式で式を挙げるのは仏様、ご先祖様の前で契り結び、お互いを幸せにする誓いをたてることなのです。」とPRし、最初のカップルは式の費用を無料とした。早速一組の希望があったが、式の次第が定まっている訳ではなく、超宗派的なものや考えなくてはならなかった。すべて初めてのことなので、実行委員は長を中心にして何回も会合を重ね、リハーサルも、やっと実現することができた。まだ不備な点は色々あるが、徐々に改善し、立派な「仏式結婚式」に定着させられたらと思うている。(17・2・17付朝日新聞「仏式の結婚式宗派を超えPR」)

● 金 沢 区 ●

去る平成十六年八月二十九日、金沢区仏教会・釈尊奉讃会主催による「金沢区仏教文化講演会」が、金沢公会堂において開催された。五十四回目となる今回は、第一部は「落語は最高のエンターテイメント」と題して、落語家の立川志らく師匠、第二部に「ご縁を生きた」と題して臨済宗妙心寺派、福聚寺副住職・芥川賞作家の玄有宗九師の講演であった。

落語家だけでなく、映画監督、演出家として幅広く芸術界で活躍される志らく師匠はその独特な語り口で、オリンピックや北朝鮮問題、そして家族の問題をユーモアと伝統にとらわれない斬新な観点から分析され、そして最後には落語を知ってもらおうと、お弟子さんと落語を演演していた。師匠である立川談志師匠や人間国宝の林家小三師匠とのエピソード、古典落語にとらわれない国際性を意識した落語はこれから益々期待することができると、続いて玄有宗九師により、穏やかな口調で「ご縁」をテーマに語っていただきました。一つの人生観にとらわれぬ毎日を送るために因果(すなわち原因と結果、ある結果を生じさせるものが因で、因によって生じるものが果だという理論)をもとに身のまわりの些細な出来事を、フロイトの「夢診断」やユングの「精神分析」などの哲学と仏教や禅の思想を融合させた比較思想的な世界観は、私たちの心をとて軽くしてくれる。今回

の仏教文化講演会は安心して生きていくたくさんのきっかけをくれたと思う。

また、当仏教会は昨年の地震災害に際して、即刻各寺院に浄財を募り、新聞社に寄託した。仏の教えに「困った人を救済するに躊躇することなかれ」の如く速やかに対応していただいた全寺院と釈尊奉讃会に感謝申し上げます。

今年には戦後六十年、明るい年であってほしい。お蔭様で金沢区仏教会も会員のご努力と、若い会員の感性で新しい時代を迎えることができる」と確信する。

● 栄 区 ●

「常勝寺・開山五百年に想う」寺歴では当寺の開山は、永正元年(一五〇四年)足利十一代將軍義澄公時代、元は鎌倉小町にあった妙勝寺の三世、常勝院日養上人が、当地坪入谷戸に創立され、山号を妙頭山と称された。現在地より二百m程離れた場所であるが、今もそこには土台石らしきものが残っており、その地の屋号もホウキヤと言われている。私が入寺した時、箒屋でもあったのかと尋ねたが、知る人はいなかった。私なりに考えてみると、お寺があった事から、箒屋ではなく、法喜庵ではなからうかと解釈している。その後、寛政十一年(一七九九年)徳川十一代將軍家斉公時代に、現在の芝子谷戸に再建され、本年は開山以来正五百年に当る。私が第二十五世の法燈を継承し早や三十二年余一口にアア五百年かと言ってはみても大変な年数である。他

編集後記

◎平成十六年を「災」の一字で清水寺の貫主が表現された。十二月二十六日にインドネシア・スマトラ島沖地震と最大津波発生。インド洋沿岸九ヶ国に死傷者二十万人以上の未曾有の災害をもたらした。年明けて、日本列島は寒波に見舞われ、中越地域に大雪が降り、二次被害が心配されている。三月二十日に福岡県玄界島沖で震度6弱の大地震が発生した。被災者のご冥福を念じ、一日も早い復興を祈るばかりである。新潟中越大地震の義捐金を市仏連より新潟県仏教会に十二月に送金した。

◎市仏連の第一回釈尊涅槃会は昭和五十一年二月十三日に西有寺で開催され、「共產主義と仏教」という演題で、鶴見大学の佐橋文寿師が講演された。第十四回目が平成元年二月七日、中区仏教会担当で西有寺で営まれた。秩父の曹洞宗広見寺住職の町田大謙師が「山の或る記」という題で話をされた。今度は三十回記念で中区仏教会当番となり、やはり西有寺にお世話になった。藤村志保さんのお話の通り、大事な「出合い」を三十回も刻んで来た得難い行事である。

事務日誌



- 16.11.15 涅槃会打合(東福院)
- 16.11.27 役員会(涅槃会の件)
- 16.12.9 理事会忘年会
- 17.1.17 涅槃会案内発送
- 17.1.24 甲電南区光明寺
- 17.2.10 第30回涅槃会西有寺
- 17.2.17 会報原稿依頼発送
- 17.3.10 慰霊堂担当区へ依頼新書。

◎寺院のこれからについて危機感を感じている僧侶にぜひ勧めたいと某書評子が云う三冊。「人の集まるお寺のつくり方」薄井秀夫著 鎌倉新書。「がんばれ仏教! お寺ルネサンスの時代」上田紀行著「生きる意味」上田紀行著 岩波新書。